

令和2年度
藤枝市教育委員会事業評価報告書

令和2年8月
藤枝市教育委員会

－ 目 次 －

事業評価の趣旨	P 1
令和2年度事業評価	P 1
藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会員名簿 ...	P 2
事業評価対象事業一覧	P 3
各事業の評価報告	P 4
教育委員の活動状況報告	P 15

1 事業評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会が行う事務の管理及び執行について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくものです。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（・・・中略・・・）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 令和元年度事業評価

市が令和元年度の重点戦略事業として位置付けた6事業、及び教育委員会が重点事業として選定した4事業の計10事業について、教育環境の充実を総合的に推進することを目的に、各方面の有識者からなる「藤枝市子ども未来応援会議」に「教育委員会事業評価部会」を設け、必要性、有効性等の観点から事業評価を実施しました。

事業評価部会

実施日：令和2年7月17日（金）

場 所：藤枝市役所302会議室

藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会

	氏名	所属団体等
部会長	松永 由弥子	静岡産業大学
委員	大橋 早苗	県立藤枝特別支援学校
委員	清水 和義	清水園芸
委員	樋口 紀子	PTA連絡協議会
委員	山下 由花	校長会

事業評価対象事業一覧

No.	事業名	担当課
1	避難所等環境改善・熱中症対策推進事業	教育政策課
2	小中学校空調設備整備事業	〃
3	小中一貫教育推進事業	〃
4	トイレ環境改善事業	〃
5	防犯設備整備事業	〃
6	子ども見守り推進事業	〃
7	特別支援教育支援員活用事業	〃
8	地産地消の推進事業	学校給食課
9	科学探求心育成事業	生涯学習課
10	子ども読書活動推進事業	図書課

各事業の評価報告

事業名	避難所等環境改善・熱中症対策推進事業			所管課名	教育政策課	事業No.	1
事業の目的及び概要	災害発生時の避難所にもなっている小中学校の体育館について、子どもたちの熱中症対策及び避難所としての環境整備を図る目的で、全小中学校の体育館にスポットクーラーを設置した。						
事業費	R1 決算	9,569	千円	財源内訳	[県費]	3,190	千円
					[市費]	6,379	
事業内容	<p>【 スポットクーラー設置 】</p> <p>必要な時に、必要な場所へ持って行ける移動式のスポットクーラーを各小中学校の体育館に4台、計108台を整備した。また、使用時に室内に熱がこもるのを避けるため、排気用ダクトも購入した。</p> <p>(スポットクーラー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 68台 ・中学校 40台 ※各校4台ずつ 計108台 <p>(排気用ダクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 34本 ・中学校 20本 ※各校2本ずつ 計 54本 (長さ4メートル/1本) 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時以外の平常時は、学校生活において児童生徒の熱中症対策（主に体育の授業の間などに体をクールダウンさせるため使用）としてスポットクーラーを活用し、リスクの軽減につなげることができた。 ・エアコンが設置されていない特別教室にも移動して使用することで、熱中症対策ができた。 ・給食室でも使用することで、給食室で働く職員の熱中症対策にも寄与した。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンがついていない体育館、音楽室などの特別教室や給食室での利用は、熱中症予防に有効である。 ・全教室にエアコンを設置するには期間を要するため、それまでの間にスポットクーラーを使用するのは有効な活用方法である。 ・災害発生時に停電した場合でも対応可能な電源の確保が必要である。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、電力供給が止まる可能性もあることから、非常用の電源の確保や電力不足への対策を検討する。
--------	--

事業名	小中学校空調設備整備事業			所管課名	教育政策課	事業No.	2
事業の目的及び概要	近年の気象状況の急激な変化による夏場の暑さに対し、児童生徒の熱中症対策及び学習環境の改善を図るため、全小中学校の普通教室にエアコンの整備を実施した。						
事業費	R1 決算	718,836	千円	財源内訳	[国費]	113,406	千円
					[起債]	563,100	
					[市費]	42,330	
事業内容	<p>【 空調設備設置 】 児童生徒の熱中症によるリスクの軽減及び、安全安心な学習環境づくりを推進するため、全小中学校の普通教室に空調設備を設置した。 また、エアコンの使用については、「藤枝市立小中学校空調設備運用指針」を策定し、これに基づき全校統一した基準で適切に運用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 298 室 ・中学校 131 室 計 429 室 <p>発注方式：プロポーザル方式（設計施工一括発注） 受注者：エクノス・東海ガス特定建設工事共同企業体 契約額：1,197,936,000 円 契約年月日：平成 30 年 12 月 21 日 特定財源：ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金（補助率 1/3） 194,928 千円（うち 81,522 千円は H30 に概算払いにより受入）</p>						
成果	<p>夏季における学校現場では、児童生徒の体調管理に特段の配慮を要し、空調設備については学校や保護者からの要望も多かった。この度の整備により、夏場の授業において児童生徒が集中して学習に取り組めるようになるとともに、学校や保護者の不安も取り除くことができた。</p>						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが学習に集中して取り組むことができたためとても有効である。 ・地球温暖化により防衛策として今やエアコンが必需品となっているため必要性がある。 ・特別教室については、すでに設置されている学校とまだ設置されていない学校があり、公平性の観点からも全ての学校に早めの対応をお願いしたい。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室については、全 27 校の全てに整備されたが、特別教室については未整備の教室が多い。特に中学校においては教科教室で行う授業が多く、整備を求める声も多い。特別教室についても改めて整備方針を検討し、計画的な整備の道筋を探っていく。
--------	--

事業名	小中一貫教育推進事業	所管課名	教育政策課	事業No.	3		
事業の目的及び概要	<p>子どもたちの未来を生き抜く力の育成のため、義務教育を9年間の連続した期間として捉え、一人ひとりの健やかな成長を支援するとともに、中学進学時の不安等の課題解決に向け計画的・継続的に子どもたちを育成するため、市内各中学校区で特色ある小中一貫教育の導入を推進した。</p> <p>また、家庭・地域・学校等が協働して地域ぐるみで取り組む「地域とともにある学校づくり」を推進するため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を小中一貫教育実施地区に導入した。</p>						
事業費	R1 決算	9,274	千円	財源内訳	[市費]	9,274	千円
事業内容	<p>【 小中一貫教育の推進 】 瀬戸谷地区に続き大洲、広幡地区において小中一貫教育を開始した。専科教員を配置し乗り入れ授業を実施するなど、それぞれの地区推進計画に基づき、地域の特色を生かした小中一貫教育を展開した。</p> <p>【 コミュニティ・スクールの導入 】 地域と協働しながら進める体制を構築するため、瀬戸谷、大洲、広幡の3地区においてコミュニティ・スクールを開始し、3地区にはそれぞれ地域と学校をつなぐパイプ役としてコミュニティ・スクールディレクターを配置し、学校運営協議会の円滑な運営に努めた。</p> <p>【 その他 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地区でも準備が整った地区から順次地区推進協議会を立ち上げており、西益津、葉梨、岡部、高洲地区が令和2年度より小中一貫教育及びコミュニティ・スクールを開始した。藤枝地区と青島地区においても、令和3年度のスタートを目標に協議を開始している。 ・本事業は学校と地域との綿密な調整が重要な事業であるため、元校長で行政経験も豊富な者を「小中一貫教育推進員」として雇用し、職員と共に対応している。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中学進学時の不安への対応だけでなく、生徒が児童に対する思いやりの心が醸成されるとともに、小中学校両方の教員の交流により学習指導や生徒指導などのスキルアップが図られた。 ・コミュニティ・スクール導入により、家庭・地域・学校が協働して地域ぐるみで子どもを育て、地域に即した教育に取り組む横のつながりの強化が生まれた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育は、切れ目なく継続的に子どもたちを育むことができ、子どもたちの成長に有効である。 ・専科教員の配置により小中学校間の教員の乗り入れ授業がスムーズに行うことができるため、9年間で子どもを育てるためには有効な手段である。 ・コミュニティ・スクールディレクターは、学校と地域を結び付けてくれ、「地域の子どもは地域で育てる」ために必要不可欠な存在である。 ・地域特性により、中学校区ごとに小中一貫教育の内容に差が生じてしまい不公平が生まれないか懸念される。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からの藤枝地区、青島地区の事業開始のための協議を進める。 ・先行地区における成功例の市民への広報や、校舎分離型で行う小中一貫教育では避けられない、乗り入れ授業の際の移動の問題についてなど、浮き彫りとなった課題への対応を行い、本市ならではの小中一貫教育の実現を目指す。
--------	--

事業名	トイレ環境改善事業			所管課名	教育政策課	事業No.	4
事業の目的及び概要	児童生徒の学校生活の環境改善を図るため、和式から洋式便器へと学校のトイレの更新を進めた。便器を洋式化するだけでなく、老朽化したトイレ施設の改修も行い、子どもに親しまれる、明るく衛生的なトイレ環境づくりを図った。						
事業費	R1 決算	75,221	千円	財源内訳	[国費]	23,367	千円
		(設計費: 3,185)			[起債]	44,400	
		(工事費: 72,036)			[市費]	7,454	
事業内容	<p>【 改修工事 】 実施校：3校（藤枝小、岡部小、朝比奈第一小）の2年生以上が使用するトイレ 概要：上記3校のトイレ便器の更新 （和式43基、洋式13基 → 洋式43基に更新） トイレブースや衛生器具及び配管の更新、床の乾式化、その他内装改修を実施 工期：令和元年5月23日～9月30日</p> <p>【 設計業務委託 】 概要：令和2年度実施予定4校のトイレ洋式化等改修工事設計業務 工期：令和元年6月5日～10月4日</p>						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の向上とともに、従来の「暗い・汚い・臭い」といったイメージが払拭され、明るく清潔なトイレ環境に改善された。児童にも大変好評であり、トイレを大切に使うようになった。 ・和式トイレでは便意があっても我慢してしまう児童が、洋式トイレ化されたことにより我慢することがなくなり、児童の健康面での改善が図られた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生の子ども達の中には和式トイレの使い方を知らない子どももおり、トイレの洋式化は必要不可欠である。 ・ノロウイルス感染症などの拡大防止の観点からも、蓋ができる洋式トイレの整備は有効である。 ・一度に全校のすべてのトイレの改修は難しいものの、各小学校の整備を順番に進めているため公平である。 ・清潔なトイレは子どもたちに好評であり、大事にきれいに使おうと情操面での効果も期待できる。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生用のトイレの洋式化を第一の目的に平成27年度より事業をスタートさせ、平成30年度に完了したものの、学校における洋式トイレの数は充分ではなく、また、施設の老朽化も進んでいるため、引き続き2年生以上の児童が使用するトイレの改修を進め、各フロアのトイレを1箇所ずつ整備し、令和5年度を目処に事業を推進する。
--------	---

事業名	防犯設備整備事業			所管課名	教育政策課	事業No.	5
事業の目的及び概要	全国で登下校中の児童が被害にあう事故が多発する中、本市においても平成 30 年度に下校中の児童が襲われ、加害者が校内へ侵入する事件が発生した。このような事件が二度と起こることのないよう、全小中学校に防犯カメラを整備することで犯罪抑止効果を高め、児童生徒が安心して学習できる教育環境の整備を進めた。						
事業費	R1 決算	9,185	千円	財源内訳	[市費]	9,185	千円
事業内容	<p>【 防犯カメラ設置工事 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施校：26 校（小学校 16 校、中学校 10 校）※高洲南小学校については整備済み。 概 要：各校に 1 台、防犯カメラ（玄関から正門を映し出す配置にて）、モニター、録画装置及び標示看板を設置した。 工 期：令和元年 6 月 26 日～7 月 19 日 						
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムで外来者の状況が確認でき、安心感が高まった。 ・「防犯カメラ撮影中」の標示看板があることで抑止効果がさらに高まり、犯罪等の未然防止に役立った。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・今や防犯カメラは安全安心な学校生活のために必要なものであり、設置の有効性は高い。 ・防犯カメラの設置自体に犯罪の抑止効果があるため、安心感があり効果的である。 ・より安全な学校環境整備のため、防犯カメラの設置台数を増やすことが効果的である。 ・ダミーカメラの設置でも犯罪抑止効果がある。数多くカメラを付けることで防犯意識の高いまちという意識づけにもなり、不審者の撲滅に有効である。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県への働きかけを続け、カメラの台数を増やせるよう財源の確保に努めていく。 ・ダミーカメラや標示看板の追加設置等により、費用をあまりかけずに犯罪抑止効果を高めるなど、対策をさらに検討する。
--------	---

事業名	子ども見守り推進事業		所管課名	教育政策課	事業No.	6	
事業の目的及び概要	登下校中の子どもを心配する保護者の不安を解消するため、I o T端末を活用し、位置情報を保護者のスマートフォンに通知することで子どもの見守りを支援した。						
事業費	R1 決算	869	千円	財源内訳	[市費]	435	千円
					[国交付金]	434	
事業内容	<p>【 子ども見守り推進事業 】 民間事業者が行う見守りサービス（GPSによる位置情報の取得が可能なI o T端末により保護者が子どもの位置情報をスマートフォンで確認できるサービス）を利用する際に必要となる費用を市が補助した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者実績 174名（年長児25名 小学生136名 中学生13名） ・対象利用者 市内小中学校に通学する児童生徒及び就学前2か月の年長児（幼稚園児・保育園児等） ・補助額 サービスを利用するために必要となるI o T端末等の機器の購入に対し、児童生徒1人につき1回、5千円を上限に助成。（月額使用料は利用者負担） ・サービス事業者 中部電力㈱、㈱TOKAIホールディングス、ドリームエリア㈱の3社を登録事業者に認定。 ・その他 事業者は、サービスにより取得した全ての位置情報データ（位置情報の取得日時、緯度及び経度など）を、それぞれの端末と紐付け、教育委員会に提供した。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを利用しやすい環境を整え、見守りサービスの利用を促進したことで登下校中の保護者の不安解消が図られた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・GPS機能を持った端末を子どもに持たせたいという保護者のニーズがあり、この事業は有効性がある。 ・機器購入の助成をすることで保護者がサービスを利用しやすい環境ができ、保護者の不安払しょくに繋がる事業であるため有効性がある。 ・取得した子どもの移動履歴の情報を、危険箇所の早期発見等の施策につなげられればさらに有効性が高まる。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は連れ去りなどの事件などが無いため保護者のニーズが少ないと思われる。保護者の不安を払しょくするため、今後も制度の周知を徹底するとともに、この事業で得られた位置情報データを、さらなる安全安心のために活用を検討する。
--------	---

事業名	特別支援教育支援員活用事業			所管課名	教育政策課	事業No.	7
事業の目的及び概要	障害の有無に関わらずどの子にとっても安心できる学校づくりを目指し、児童生徒が安定した学校生活を送るため、一人ひとりの教育的ニーズに応じたよりきめ細やかな支援ができるよう、市内全学校に「特別支援教育支援員」を配置した。						
事業費	R1 決算	87,907	千円	財源内訳	[市費]	87,907	千円
事業内容	<p>特別な支援を要する児童生徒が年々増加している中、インクルーシブ教育や小中一貫教育の理念からも、子ども一人ひとりのニーズや学校の実態にあった支援体制の再構築を図った。</p> <p>【特別支援教育支援員の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・74人の支援員を全校に配置（1日6時間、年間180日勤務） <p>【特別支援教育説明会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高める研修会を年3回実施した。 ・講演会の聴講及び実践に直結するグループワークを実施 <p>【支援内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級や通常学級の枠にとらわれない、実態に応じたきめ細やかな支援を行った。 ・支援員のうち、小学校と中学校をつなぐ役割を持つ支援員を中学校区に配置し、各校を兼務することで切れ目ない支援を行う体制を整えた。 ・新小学1年生への支援を重点的に行う。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級と通常学級の垣根をなくし一元化したことで、子ども一人ひとりのニーズや学校の実態にあった支援体制をつくることができ、より細やかな支援につながった。 ・6時間勤務に延長したことで、子どもが学校に居る時間をトータルでサポートする時間が増えた。 ・小中一貫教育の観点から中学校区に専属の支援員を配置することで、小中9年間を見越した支援や兄弟関係、家庭を取り巻く環境への配慮等、支援の連携が図られた。 ・新1年生への重点配置により、学校生活をスムーズにスタートすることができた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細やかな支援のため必要な事業である。 ・支援員の勤務時間が延長され、子どもが学校に居る時間の全てサポートできるようになったため、有効性が高まった。 ・中学校区に配置の支援員が、小中学校と連携して切れ目ないサポートをし、大変効果的である。 ・支援員は全校に配置されているため、学校間に差はなく公平性がある。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員一人ひとりのスキルアップにつながる研修を実施し、よりきめ細かで柔軟な支援の充実を図る。 ・医療的ケアを必要とする児童生徒の支援体制を整えるために、看護師免許を有する支援員を配置するとともに、効果的な活用方法を研究する。
--------	--

事業名	地産地消の推進			所管課名	学校給食課	事業No.	8
事業の目的及び概要	地産地消の推進に関する条例に基づき、市内又は県内の食材を利用することにより、食文化の向上と食育の推進を図る。栄養教諭による食育の授業や、親子料理教室を通して、安全安心で新鮮な食材が地元にあることを再認識し、地元の食文化を守り生産者への感謝の心を育む。また、輸送に係るエネルギー削減、生産緑地が地域を守ることなど、環境にやさしい行動であることの理解を生産者、栄養教諭などの講話により深めた。						
事業費	R1 決算	217	千円	財源内訳	〔市費〕	217	千円
事業内容	<p>【 親子料理教室 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産食材を使用した給食メニューの料理教室を開催した。 令和元年8月7日開催 3会場 保護者29人 児童37人 計66人参加 <p>【 食育指導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭等がクラス訪問、給食時学校訪問、保護者会などで食育指導を実施した。 食に関する指導 353回 給食時学校訪問 299回 計 652回開催 ・環境省の3R促進モデル事業で作成した、地元のお米・野菜を使った給食の食べ残しから3Rを学ぶ本市動画教材を全校に配布し、給食と環境とをつなげる意識の向上を図った。 						
成果	<p>【 親子料理教室 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内産食材を使用する意義を理解してもらうことで、家庭における地産地消に対する意識の向上が図られた。料理を作り、楽しむことのほか、栄養教諭により食育の講話を行った。また、生産者による講話も実施したが、生産者の言葉は、参加者の心をつかむもので、地元産の食材の大切さを考え直す機会ともなった。 <p>【 食育指導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校へのクラス訪問等による食事と栄養関連の食育指導を通して、毎日の食事の重要性に対する認識を深めた。6月のふるさと給食週間には、献立で使用した藤枝市や近隣市で生産されている食材など地産地消の指導を行った。また、リクエスト献立やABCクッキングスタジオと共同開発したメニューを提供し、給食時間を子どもたちにとって楽しい学びの場とした。 ・地元食材の食べ残しから3Rを学ぶ動画教材は、小学校12校、中学校5校合計17校で利用し、環境問題とつなげた食育学習に役立てた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食育指導は、給食がどれだけ大切でどのように考えて作られているかを知る良い機会となり有効性がある。 ・給食に使う野菜を作る地元生産者からの講話が聞けるのは、子ども達にとって貴重である。 ・お金を出せばコンビニなどですぐ買える時代の中、親子で料理を作る時間を作ることは有効である。 	

今後の方向性	<p>【 親子料理教室 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年夏休みに実施し、参加児童及び保護者により評価をいただいている。令和2年度の夏休みは、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送ったが、その後は、引き続き実施を図っていく。 <p>【 食育指導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携を図りながら給食時学校訪問や栄養教諭による食育の授業により、食育の重要性を指導していく。動画教材についても継続して利用を促し、引き続き意識の高揚を図っていく。
--------	--

事業名	科学探求心育成事業			所管課名	生涯学習課	事業No.	9
事業の目的及び概要	科学や技術開発に興味を持つ子どものすそ野を広げ、科学的な探求心を育むことで未来を切り拓く子どもを育成するため、大学やJAXA等と連携した各学年層に応じた科学教室やイベントを開催した。「将来、藤枝市からノーベル賞受賞者を輩出する」ことを大目標に、科学教育を推進した。						
事業費	R1 決算	4,904	千円	財源内訳	〔市費〕	4,791	千円
					〔諸収入〕	113	
事業内容	<p>【 科学体感イベント『フジエダ☆宇宙キッズラボ』 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：7/27（土）9：30～15：30 ・場 所：生涯学習センター ・対 象：主に小学生以上 ・内 容：ホールでは宇宙飛行士になるための訓練「スペースシャトルパーク」、無重力を体験できる「スペースシート」、宇宙から地球への帰還をイメージした「スカイダイビング」、館内各室では、静岡市「くるくる」によるサイエンスショー、ディスカバリーパーク焼津による星座早見ペーパークラフト、宇宙服で記念撮影、宇宙に関する本の読み聞かせなど。 ・参加者：1,620人 <p>【 JAXA 社会教育プログラム『コズミック・カレッジ』（年間5回） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：5/25, 7/27, 9/21, 11/30, 1/25 ・対 象：小学1・2年生とその保護者 ・内 容：JAXA 科学教育プログラムを活用して、知識の習得に偏らず、実験・体験によって感動を与えることを重視した、親子科学体験教室 ・参加者：延べ166人 <p>【 わくわく科学教室（年間5回） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：6/22, 7/27, 10/19, 12/21, 1/25 ・対 象：小学3・4年生 ・内 容：静岡大学教育学部と連携して、大学生が企画したバルーンロケットづくりや、昆虫型小型ロボットの操作など、科学の楽しさや面白さを知る科学体験教室 ・参加者：延べ344人 <p>【 FCSS（藤枝宇宙科学教室）（年間6回） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：8/1, 8/22, 9/14, 10/26, 11/4, 12/24 ・対 象：小学5・6年生 ・内 容：静岡理工科大学と連携して、ロケット工学や朝比奈大龍勢の仕組みを学び、JAXA や FDA など宇宙航空関連施設の見学を年間通して行う科学体験教室 ・参加者：延べ166人 <p>【 フジエダこども実験教室（年間1回） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：12/26 ・対 象：小学4・5・6年生 ・内 容：身近な物質の不思議を実験を通して解明する化学教室 ・参加者：37人 						
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・「フジエダ☆宇宙キッズラボ」は、前年を上回る来場者があり、来場者アンケートからは「楽しかった・また来たい」との意見が多かったことから、科学や宇宙に興味を持つ子どものすそ野を広げることができた。 ・各学年層で開催している科学教室では、体験を通じて子どもたちの興味・関心を広げ、主体的に考える力を育むことができた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業では行えない専門的な実験までも本事業では実施するため、子ども達の知的好奇心に働きかけ、大変有効である。 ・子ども達がものづくりに興味を持って、将来の夢を育んでいくことができる効果的な事業である。 ・様々な学年の子ども達が参加できるよう年齢層に応じた教室があり、偏りがなく公平性がある。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「フジエダ☆宇宙キッズラボ」「コズミックカレッジ」「わくわく科学教室」「フジエダこども実験教室」、JAXA との授業連携を継続して実施し、「FCSS」を発展させて、モノづくりにより創造性を育む視点を盛り込んだ「藤枝市少年少女発明クラブ」を開設して、科学教育の更なる推進を図る。
--------	---

事業名	子ども読書活動推進事業	所管課名	図書課	事業No.	10
事業の目的及び概要	藤枝市子ども読書活動推進計画に基づき、すべての子どもがあらゆる機会にあらゆる場所で自主的に読書活動を行うことができるよう、必要な環境を整備し、読書の機会を提供するなど積極的な読書活動の啓発を推進した。				
事業費	R1 決算	3,173 千円	財源内訳	〔市費〕	3,173 千円
事業内容	<p>【 就学時おすすめ本パンフレット（セカンドブック）の配布 】</p> <p>就学時検診の際に、図書館がおすすめする本のパンフレットを配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット 1,500 部作成 <p>【 静岡県子ども読書アドバイザーの会@ふじえだの活用 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじえだイクメン講座（8/28） ・藤枝市社会福祉協議会子育てサロン連絡会（10/9） ・大洲子育てサロン連絡会（12/20） <p>【 そらいろ図書館の実施 】</p> <p>発達に課題のある子どもたちを休館日に図書館に招き、自由に館内で本を読んだ後、職員による読み聞かせ、手遊びなどを行った。（実施回数5回、子ども77人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/29 子ども 17人 施設職員7人 保護者16人 ・8/5 子ども 21人 施設職員9人 ・1/14 子ども 10人 施設職員6人 静岡福祉大学学生40人+教授1人 ・1/20 子ども 20人 施設職員9人 ・2/17 子ども 9人 施設職員4人 				
成果	<p>【 就学時おすすめ本パンフレット（セカンドブック）の配布 】</p> <p>本市の小学校に入学するすべての児童に各校を通じて配布し、読書に親しむきっかけ作りができた。</p> <p>【 静岡県子ども読書アドバイザーの会@ふじえだの活用 】</p> <p>静岡県子ども読書アドバイザーの会@ふじえだの会員に、男女共同参画・多文化共生課とのコラボで実現したイクメン講座や子育てサロン等の講師をお願いし、その知識を家庭での読み聞かせや絵本の活用につなげた。</p> <p>【 そらいろ図書館の実施 】</p> <p>実施可能日を拡大して施設と調整することにより、新しい団体の参加につながった。また、静岡福祉大学との今後の連携について、検討を進めることができた。</p>				

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	<ul style="list-style-type: none"> ・おすすめ本パンフレットは学校から配布し全家庭に渡るようになってきているため、公平で有効である。 ・近年、本が電子化され、紙の本を読む機会が減ってきているため、大学生と交流をしながら本に親しめるこの事業は重要であり必要性がある。 ・子ども読書アドバイザーの活用として、イクメン講座や子育てサロン等の講師をお願いするなど、様々な人を巻き込んだイベントを実施しており事業の幅が広がり有効である。 ・そらいろ図書館は発達に課題がある子ども達にもユニバーサルに実施できているため、公平である。
---------------------------------	---

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時おすすめ本パンフレットを引き続き作成し、優良な本をお薦めするツールとして活用していく。 ・学校や大学および読書活動に熱心な市民との連携を強化し、様々な形で子どもの読書活動の推進を図る。 ・施設面だけでなく、機能面でも図書館のユニバーサルデザイン化を推進し、読書を希望する全ての市民が利用できる環境を整備し、本市の読書環境を向上させる。
--------	---

教育委員の活動状況報告

教育委員の活動状況報告

1 教育委員会の会議

藤枝市教育委員会では、藤枝市教育委員会会議規則（昭和 31 年教育委員会規則第 2 号）に基づき、月 1 回の定例会と、必要に応じ臨時会を開催しています。

教育委員会の所掌事務は、「当該地方公共団体が処理する教育に関する事務」（法第 21 条）と定められており、その範囲は広範であるため一部の事務は「教育委員会の権限の一部を教育長に委任する規則」により教育長に委任されています。したがって、定例会では教育長に委任できない事務について審議をしています。

令和元年度の定例会及び臨時会での審議内容等は以下のとおりです。

【定例会開催回数】	12回	【臨時会開催回数】	2回
【附議件数】	29件	【事業報告件数】	87件

【附議の内容】

No.	案 件	件数
1	教育委員会規則等を制定し、又は改廃すること	5
2	議決を要する議案について市長に意見を申し出ること	2
3	附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること	7
4	職員の人事に関すること	2
5	教育に関する一般方針を定めること	10
6	文化財の指定に関すること	3
	計	29

2 総合教育会議

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき総合教育会議を開催し、市長と教育委員会が本市の教育の方向性や施策等について協議しました。

令和元年度には3回の会議を開催し、協議事項等は以下のとおりです。

No.	会 議	開催日	場 所	協議事項等
1	第12回 総合教育会議	令和元年 5月24日	葉梨 中学校	・本市の特別支援教育について ・特別支援学級の参観（知的学級、自閉症・ 情緒学級）
2	第13回 総合教育会議	令和元年 10月28日	特別 会議室	・小中一貫教育推進事業の取組状況について
3	第14回 総合教育会議	令和2年 1月28日	特別 会議室	・特別な支援を必要とする子どもへの支援 について ・学校における図書活動について

3 その他の教育委員の活動

教育委員は教育行政の更なる推進と円滑なる教育委員会の運営を図るため、委員会における審議とは別に静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会などへの参加や市内小中学校の訪問をはじめ市及び教育委員会各課が主催する行事等の現場視察等を実施し、本市教育委員会の活性化を図るとともに教育委員としての資質の向上や自己研鑽にも務めています。

令和元年度活動状況は、以下のとおりです。

【教育委員の活動内容】

分類	案 件
1 調査・研究	(1) 藤枝市校長会研修会への参加 (2) 指定校の研究発表会への参加 (3) 静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する 研修会への参加
2 現場視察	(1) 市内小中学校訪問 (2) 市及び教育委員会各課が主催する各種行事へ参加

令和2年度
藤枝市教育委員会事業評価報告書

令和2年8月
藤枝市教育委員会